

地域振興にかかわる卒業研究の取り組み

——観光・移住および愛着・定住に関する事例——

松 原 小夜子*

Working on Graduation Research Relating to Regional Development
Cases about Sightseeing, Migration, Attachment and Continuing Living

Sayoko MATSUBARA

1. はじめに

筆者の研究室では、卒業研究として様々なテーマに取り組んできたが、ここ数年は、地域をみつめ、地域振興につながるようなテーマを多く取り上げてきた。これらの地域振興にかかわるテーマを一覧するとともに、環境共生と防災関連を取り上げた前報に続き¹⁾、本稿では、観光・移住および愛着・定住に関する事例を紹介することとした。

前報でも述べたように、今日、地球をめぐる環境が緊迫した事態にあるなかで、子々孫々にわたってあらゆる生命が永続し得る持続可能な社会へのパラダイム転換が求められている。この点について、筆者は、住居学（空間にかかわる暮らし方を探求する学問分野）の視点から研究を行ってきたが、拙著『持続可能な暮らし×自然系ゲストハウス—脱消費、スロー、ミニマル、ローカル』において、持続可能な暮らしへの転換にあたっては、「スロー」（自然あるいは生命に即した速さ）、「ミニマル」（必要最小限）、「ローカル」（地域的特色、地域性）な脱消費の暮らしが重要であることを論じている²⁾。

「スロー」「ミニマル」「ローカル」の中で最も重要な要素は、「ローカル」であると考えられる。なぜなら、人は、いずれかの土地に住まいを設け、地域に固着して地域のさまざまな自然とともに暮らしているからである。グローバル化が進行する現代であるが、人間が生きていくうえで必須な食料やエネルギーを遠く離れた他国に依存する不安定な暮らしではなく、できる限り地域の資源を生かす暮らしが求められているのではないだろうか。そして、ローカルを軸にしながら、ミニマルでスローな暮らしの実現をはかりたいものである。

こういった視点から、自分の住む地域、あるいは何らかのゆかりある地域をあらためて見つめ、地域の歴史や特色、すぐれた点、抱える課題や問題をとらえ、改善策を探り、具体案を提示するといった研究活動をとおして、ローカルな視点から発想し行動できるような資質を学生たちに身につけてもらいたいとの願いも込めて、地域振興にかかわるテーマ

* 生活科学部 生活環境デザイン学科

に取り組んできた。

2. 地域振興にかかわる卒業研究一覧

近年取り組んできた地域振興関連の卒業研究について、タイトル、サブタイトル、研究形式、研究の分類を年度別に一覧したものが表1である。

タイトルあるいはサブタイトルに地域名が記載されているが、東海4県内のいずれかの地域を対象としている。研究の形式については、生活環境デザイン学科の卒業研究には、論文、設計、制作、企画の4つの形式があるが、地域振興への何らかの提案や活動が中心であることから、主に企画形式もしくは設計形式としている。このうち、2008年度の「E-coが育つ星ヶ丘」と2014年度の「豊丘地区振興基本計画に基づく具体策の提案」は、学生たちがそれぞれのテーマを持ちながら共同研究として取り組んだもので、この2つ以外の研究は、学生1～3人で取り組んだものである。

内容は、地域の観光促進（観光）、地域の観光を促進し移住を促す（観光・移住）、地域への愛着やシビックプライドを高め一層の定着を促す（愛着・定住）、環境共生、防災の5つに大別でき、これらを既存建物や自然環境などの再生という設計あるいは制作形式で行う場合は、再生・観光、再生・愛着、再生・環境などとした。

3. 観光・移住の事例

3.1 豊丘地区振興基本計画に基づく具体策の提案—観光資源に着目して（2014年度）

愛知県知多郡南知多町は、知多半島の最南端に位置し、漁業・農業・観光が盛んなまちである。しかし、南知多町内9地区のうちの豊丘地区では、2008年の豊丘小学校廃校を機に人口減少と高齢化が深刻化している。

南知多町では、町民と行政が共通の目標を持って地域づくりを推進することをねらいに、地区ごとの振興基本計画を策定しているが、「豊丘地区振興基本計画」では、①みんなが住みたくなる快適なまち、②地域資源を生かした観光のまち、③農を生かしたまちの3つの目標が設定されている。このうち、「農を生かしたまち」についても、観光農業等新規参入就農者の育成など、観光農業の推進が提案されており、豊丘地区にとって観光は、地域の産業としてのみならず、移住者増加対策としても重要視されていることがわかったが、観光振興に関する具体策の検討はほとんど行われていない。

そこで、この研究では、一部しか掘り起こされていない現状にある観光資源に着目して、まちおこし活動を行う「春の会」の協力を得ながら、観光による訪問者の増加や移住者の増加につなげることができるような企画・提案・作成を行うこととした。具体的には、表1に示すようなテーマに学生8人で取り組んだ。研究内容は多岐にわたるが、ここでは、それらの要点のみを簡単に紹介することとした。

①各種アンケート調査の結果

各種調査のうち、豊丘地区住民意識調査（2014年9月実施、270票配布、70票回収、回収率26%）では、「豊丘地区振興基本計画」に示されている対策について、重視する順位を尋ねたところ、第1位が「若者の町外への流出防止」68%、第2位が「町外からの移住

地域振興にかかわる卒業研究の取り組み

表1 地域振興関連卒業研究テーマ一覧

年度	タイトル	サブタイトル	形式	分類	担当学生名
2008	E-coが育つ星ヶ丘	プロジェクトX (テン)		再生・環境	
	・E-coなまちをつくろう	むかし・いま・これから	制作		大林万理恵
	・模型でまちを考えよう	未来のまちづくりツール	制作		森嶋裕子
	・緑と水に親しもう	緑化計画	制作		瀬野陽菜
	・作って、食べよう	「農」と「食」	制作		浅田かほり／林秀美
	・共に暮らそう	E-co housing	設計		稲葉千晴
	・E-coアクションしよう	コミュニティ施設	設計		鈴木美穂
	・CO ₂ を減らそう	低炭素社会をめざして	制作		櫛田麻美子
	・自然の音をよみがえらせよう	音風景の再生	制作		磯田紗葵
	・自然の匂いをよみがえらせよう	匂い風景の再生	制作		都梅まき
	・E-coぬり絵巻	星の降るまち 星ヶ丘	制作		中尾妙光
2009	丘をつづる絵本	むかし、いま、これから	制作	再生・環境	富野真実／横田梓
2011	葉膳茶屋	犬山城下町の町家再生計画	設計	再生・観光	一色彩
2012	木組みに集う家	稲沢市内の民家再生計画	設計	再生・愛着	吉田葵
2014	豊丘地区振興基本計画に基づく具体策の提案	観光資源に着目して	企画	観光・移住	
	1. 研究概要				滝本亜依
	2. 各種アンケート調査の結果				青山奈々子
	3. ムクロジストラップとムクロジエコ洗剤				中瀬美帆
	4. 豊丘地区イメージキャラクター				村上加奈
	5. 豊丘地区サイクリングマップ				村上加奈
	6. 豊丘地区紹介マップ				山崎美来
	7. 乙方集落探検マップ				早川香奈恵
	8. 豊丘地区PR映像				稲垣美郷
	9. 「豊丘暮らし」ポスター&冊子				只井実希
2015	長久手市の魅力を伝える	郷土トランプ	企画	愛着・定住	村田知里／森浦愛
2016	岐阜県関市の暮らし発信	旧板取村を事例に	企画	愛着・定住	各務玲於菜
2016	あま市郷土かるた		企画	愛着・定住	上村梨乃
2016	各務原市工業かるた		企画	愛着・定住	高橋萌
2016	島小茶屋	奈良井宿の古民家再生	設計	再生・観光	阪口奈穂
2018	武豊の魅力スポット1日巡り	愛知県知多郡武豊町	企画	観光・移住	伊藤里華
2018	コミュニティバスで豊川巡り	愛知県豊川市	企画	観光・移住	鈴木真由
2018	観光、起業、移住で湯の山温泉活性化	三重県三重郡菰野町	企画	観光・移住	清水杏奈／藤田詩織
2018	清須市かるた	愛知県清須市	企画	愛着・定住	高木唯衣
2018	音楽に集う宿	静岡県浜松市	設計	再生・観光	松下侑世
2018	昔と今をつなげる宿	名古屋市熱田区	設計	再生・観光	上野愛里
2018	自然、農業、暮らしを体験できる宿	富山県富山市八尾町	設計	再生・観光	川嶋彩友美
2018	お寺を拠点に地域再生	三重県鈴鹿市三宅町	設計	再生・観光	実義真衣
2018	親子で味わう特産カフェ	愛知県碧南市	設計	再生・愛着	山川優歩
2019	街道すごろく	愛知県稲沢市	企画	観光	高橋智花
2019	おもてなしマニュアル	愛知県西尾市	企画	観光・移住	富永柚子
2019	寺町かるた	名古屋市中区	企画	愛着・定住	小林皆実
2019	地域カレンダー	名古屋市守山区	企画	愛着・定住	谷野七海
2019	シビック・プライドを高めるフリーペーパー	愛知県春日井市	企画	愛着・定住	下田リョ
2019	仕事も暮らしも大口町	愛知県丹羽郡大口町	企画	愛着・定住	長谷川博香
2019	足助に泊まる、蔵で遊ぶ	愛知県豊田市	設計	再生・観光	菅野真由
2019	まちに泊まる、まちが集う	名古屋市南区	設計	再生・観光	岡和佳奈
2019	鶴舞高架下を生かす	名古屋市昭和区	設計	再生・観光	松井美羽
2019	共につくる、食べる、学ぶ	愛知県知多郡東浦町	設計	再生・愛着	内田紀香
2020	有松さんば	有松地区まちあるきマップ&インスタグラム	企画	観光	牧野菜摘
2020	一宮ぶらり旅	カフェ、繊維、史跡のInstagram	企画	観光	湯本帆乃香
2020	日本料亭で衣食住の文化に親しむ	松楓閣リーフレット& SNS 発信	企画	観光	片岡理沙
2020	まちなかで働く、暮らす、学ぶ	岐阜市中心市街地リーフレット& SNS 発信	企画	愛着・定住	河尻英恵
2020	イベント情報お届けします！	名古屋市守山区 SNS 発信	企画	愛着・定住	福本実来
2020	エコライフを学ぶ、楽しむ	カード型すごろく	企画	環境共生	市村雅
2020	作ってみよう！マイ・タイムライン	安城市東山地区防災冊子	企画	防災	前野ゆき菜
2020	みんなで水害対策！備え、情報、避難	大垣市防災トランプ	企画	防災	高橋千咲
2020	地場野菜でつなぐ地域の絆	岡崎市藤川町卸売店改装計画	設計	再生・愛着	佐々木円
2020	まなぶ、つなげる、ひろがる	上飯田駅ビル活性化計画	設計	再生・愛着	櫻山詠麻
2021	有松よろず紹介	名古屋市緑区有松 SNS 発信	企画	観光	井上あかね
2021	一宮郷土かるた&年表遊び	愛知県一宮市100周年記念	企画	愛着・定住	川瀬幸奈
2021	里山と海の食カレンダー	愛知県知多郡美浜町	企画	愛着・定住	百合草瑠美
2021	にっしんの歴史・文化・自然環境	愛知県日進市 SNS 発信	企画	愛着・定住	小野寺萌華
2021	春日井サボテンの魅力を伝える、味わう	愛知県春日井市サボテンプロジェクト	企画	愛着・定住	川口緋愛／西川花帆
2021	映像でみる防災紙芝居	愛知県丹羽郡扶桑町	企画	防災	藤本有紀

松 原 小夜子

2021	まちに泊まる	愛知県岡崎市康生町活性化計画	企画	再生・観光	新悠華／近藤優圭
2021	地場野菜と食文化に親しむ	名古屋市天白区建物活用	設計	再生・愛着	太田凜
2021	「憩う」「感じる」「育てる」緑のネットワークづくり	愛知県岩倉市五条川流域	設計	再生・環境	野崎泉美
2022	若者に観光の魅力を伝える	愛知県東海市 SNS 発信	企画	観光	森口侑奈
2022	コミュニティバスマップでまちを巡る	愛知県半田市	企画	愛着・定住	加藤さらさ
2022	春夏秋冬イベントフリーペーパー	三重県四日市市	企画	愛着・定住	但木友希乃
2022	やってみました！水害対策	岐阜県岐阜市 SNS 発信	企画	防災	浅野祥子
2022	石材の魅力を引き出すエクステリア、インテリア	愛知県岡崎市康生町	設計	再生・観光	小山花凜／中島瑞葵
2022	「昭和レトロ」な街並み提案	名古屋市西区円頓寺商店街	設計	再生・観光	瀬尾桂葵
2022	秀吉・清正時代の暮らし SDGs	名古屋市中村区中村公園	設計	再生・環境	五十住寧々
2022	自然と触れ合うフリースクール	名古屋市天白区天白公園	設計	再生・環境	兼子彩
2022	避難時にも活用！グランピング施設	岐阜県岐阜市岐阜ファミリーパーク	設計	再生・防災	白木 絢
2023	来てみりん！西三河	愛知県西三河地域9市1町紹介冊子& SNS 発信	企画	観光・移住	坂巻花音／佐藤真乙／柴田のどか
2023	住み続けよう！東郷町	愛知県愛知郡東郷町かるた、シール、SNS 発信	企画	愛着・定住	辻美央音／永田理子／吉田彩乃
2023	古い街並みと古民家の活用提案	愛知県知多市岡田地区(知多木綿発祥の地)	企画	再生・観光	外山喜彩／野崎七海／藤井歩美

企画や制作であっても設計提案を含む場合は、「再生・観光（or 愛着 or 環境）」としている。

促進」43％、第3位が観光関連35％（「観光資源の活用」16％と「農業の観光活用」19％）という結果となるなど、人口減少をくい止めることや、観光が重視されていることがわかった。

②ムクロジストラップとムクロジエコ洗剤

廃校となった豊丘小学校（現在の町施設「豊丘むくろじ会館」）には、おそらく知多半島に1本しかない珍しい「むくろじ」の木がある。むくろじ（無患子）には、鬼を払い子どもが患わないという言い伝えがあり、子どもの健やかな成長を願って植えられたものである。古来、その種子は、羽根つきの玉や数珠などに使われ、種皮は、天然界面活性剤サポニンが含まれることから油落とし用の洗剤として使われてきた。そこで、こういった特性を生かした特産品として、「ムクロジストラップ」（子どもの成長と家族円満のお守り）（説明書付き）（写真1）と「ムクロジエコ洗剤」（写真2）を企画・作成した。

③豊丘地区イメージキャラクター

南知多町の観光地には、町あるいは地区の特徴をあらわす「ゆるキャラ」や「イメージキャラクター」が存在しているが、豊丘地区にはないことから、イメージキャラクターを提案した。むくろじの木をモチーフとして、ランニングスタイルの元気で明るい「むくろじい」と孫の「むくろー」が手をつないで走る姿に、老いも若きも力をあわせまちおこしを行うというメッセージを込め、今回作成の各種媒体に掲載した（写真1、図1など）。

④豊丘地区サイクリングマップ

南北に長い豊丘地区には、北に海沿いの潮干狩り場、南に花ひろばがあるなど、四季折々の自然豊かな風景が広がり、昔なつかしい風情もある。これらを満喫してもらえるよう、手書きアナログ形式のサイクリングマップを企画・作成した（図1）。発着を「豊丘むくろじ会館」とし、畑と木→レトロな車→竹本記念館→田んぼの景色→潮干狩り場→ぼんかふえ・ナイスウェーブカフェ・THファームなどの休憩場所→南知多町運動公園→ひまわり畑→花ひろば→コスモス畑→鯛祭り広場→レトロな郵便局などを巡るコースとした。

⑤豊丘地区紹介マップ

南知多町内の豊浜や内海、日間賀島、篠島などの観光地には、観光マップが存在しているが、豊丘地区にはないため、冊子形式の地区紹介マップを企画・作成した（図2）。内容は、「豊丘グルメ旅」「作る買う豊丘」「コスモス街道」「行っとこ!! 花ひろば」「イベ

ントガイド」「神社・寺巡礼」「見どころ行きどころ」「むくろじ」に分け、山田集落、海岸沿い、豊丘周辺などのマップも折込んでいる。

⑥乙方集落探検マップ

豊丘地区は、山田と乙方の2つの集落から成り、山田集落には花ひろばなどの観光地があるが、乙方集落は、知多半島の「古い町並み」としてネット上で紹介されているものの地味な存在である。そこで、乙方集落を探検し、魅力を発見・発掘できるような冊子形式の探検マップを企画・作成した。冊子の独自性をアピールできるように、集落模型を作成し、これを地域図とした(図3)。探検内容は、焼杉を外壁に使った建物、銀杏・紅葉・桜といった様々な色合いの木々や植物、化石が採れる穴場スポット、郵便局やむくろじ会館などの建物、神社と寺、地区ごとに分けた模型地図などである(図4)。

⑦豊丘地区PR映像

これまで述べてきたような紙媒体等に加えて、SNSや動画共有サイトなどに地域の姿を映像で提示することも有効であると考え、豊丘地区PR映像の企画・作成を行った。映像は、地域の「PR映像・春祭り」「PR映像・長編」「PR映像・短編」の3編とした。映像の概略は、「PR映像・春祭り」では、街並みと龍の舞→春祭り会場の熊野神社→風船に願いごとを書いて飛ばすイベント(写真3)、「PR映像・長編」では、河和駅から豊丘地区へ→豊丘簡易郵便局→田園風景や乙方潮干狩り場などの見どころ→豊丘地区から河和駅へ(写真4)、「PR映像・短編」では、長編を簡略化するとともに、航空写真によるオープニングと星空・日の出のタイムラプスを挿入するなどしている(写真5)。

⑧「豊丘暮らし」ポスター&冊子

豊丘は、海や山などの豊かな自然のなかで、昔ながらの暮らしが息づいている地区でもあるが、こういった暮らしを志向してもらえるように、暮らしを紹介するポスターと冊子を企画・作成した。まずポスターでは、水路を中心にしたカラー版(図5)と、まち並みを中心にしたセピア版を作成した。冊子の内容は、「わがまちの特徴」「歴史あるまち「豊丘」」「南知多町誌」「わがまちの家庭の暮らし」「わがまちの地域の暮らし」「こんな人に住んでもらいたい」「豊丘暮らし適正チェック」「住んでいる人の声」「住まいの紹介」(南知多町では空き家バンク制度が充実している)などである(図6)。

⑨研究報告会等の活動

先に述べた「春の会」は、豊丘小学校廃校後に途絶えてしまった「春祭り」の再興をねらいとして2010年に結成された会である。まず、2014年2月には春の会役員と会合を持ち、会設立の趣旨や経緯を聞くとともに、今回の素案を提示し、おおむね賛同を得た(写真6)。同年4月には再興された春祭りに参加し、松原研ブースを設け、今回の素案の展示と意見収集を行った(写真7)。同年10月には、椋山女学園大学大学祭にて、提案内容を示したパネルと提案物の展示を行い、意見を収集したところ、今回の提案によって、潮干狩り場などの観光スポットだけでなく、豊丘集落内の魅力もアピールできることが確認できた(写真8)。同じく南知多町文化展会場でも同様の展示とムクロジストラップ作り体験コーナーを設け、地元の人々からの意見収集を行った(写真9)。

これらを踏まえて、各種提案と紙媒体案等を完成させ、同年12月に南知多町総合体育館において最終報告を行った。当日は、春の会役員、豊丘地区乙方区長、同山田区長のほか、豊丘地区八町地域まちづくりNPO、豊浜地区まちづくり協議会、町役場地域振興係、

中日新聞社などからの出席も得ることができた。出席者からは、地域の人々にはあたりまえとなっているまちの風景などの魅力をあらためて認識したとの声が多く、今後のまちおこし活動につなげていきたいとの意見を得た（写真10）。12月19日の中日新聞朝刊知多版では、学生目線でのまちおこし研究に地域の人々も高い関心を寄せたと報じられた³⁾（写真11）。最後に、これらの紙媒体を印刷するなどして、多くの人に手に取ってもらえるよう、役場や各種施設、観光スポットなどに配布した（写真12）。

なお、この後に述べる企画形式の研究では、いずれも、上記で述べたような「試作あるいは原案への意見収集」→「収集した意見に基づき修正、完成版作成」→「完成版提示あるいは提供・配布」といったプロセスを経ていることを付け加えておきたい。

3.2 観光、起業、移住で湯の山温泉活性化―三重県三重郡菰野町（2018年度）

三重県三重郡菰野町は、開湯1,300年を超える湯の山温泉や御在所岳がある広く知られた観光地であるが、年々高齢化と若者転出、空き家化などが進み、宿泊者数も30年前の半分にまで減少している。こういった状況の改善に少しでも寄与したいと考え、若者層の観光、起業、移住につながるようなゲストハウス、コワーキングスペース、シェアハウスへの建物利用の提案を行うこととした。

ゲストハウスは、湯の山温泉地の中心にある既存建物を一部増築する提案である。徒歩圏内で温泉巡りができる位置にあり、裏庭には駐車スペースも確保できるので、高速道路等の利用にも便利で、目の前には名古屋駅直通のバス停があるなど、交通アクセスも良好である。建物内では、相部屋利用や貸切利用ができ、広い前庭を利用したテント泊も設定した（図7）。コワーキングスペースは、駅から徒歩10分の既存建物を利用したもので、独立した和室4室を貸し会議室とし、洋室4室は、壁を取り払い大きなコワーキングスペースとした（図7）。半個室スペースや共用スペースも設けた。シェアハウスは、田園地帯にある既存建物を利用したもので、自給自足的な農業体験もできる提案とした。

これらの提案を「鹿の湯ホテル」のサロンで展示するとともに、観光協会や各宿、御在所ロープウェイ、ゲストハウス用建物所有者などにも提示して意見を求めたところ、ゲストハウスの実現に向けて検討を進めることになった（写真13）。

3.3 足助に泊まる、蔵で遊ぶ―豊田市足助町（2019年度）

愛知県豊田市足助町は、古くから三週街道の足助宿として栄えたまちである。紅葉の名所として名高い香嵐溪を有し、2011年には愛知県で初めて重要伝統的建造物群保存地区に選定されるなど、景観の維持に努めてきた。しかし、まちの現状について、役所や住民に聞き取り調査を行ったところ、少子高齢化や空き家の増加、香嵐溪には若者も来るがまちには足を運んでくれない、まちの人の集まり場や子どもの遊び場がないなどの課題を抱えていることがわかった。こういった声をふまえて、この設計では、市に寄贈され、活用方法を検討中である元商家を利用して、若者が気軽に泊まれるゲストハウス、まちの人も集えるカフェ、子どもが遊べる蔵や庭の提案を行うこととした。

まず、母屋を「カフェ&ゲストハウス」とし、1階は、昼間はカフェ、夜間は宿泊者のくつろぎや交流場所、2階は宿泊室とした（図8）。蔵は、まちの特産品等を扱う「蔵ショップ」、中高生や宿泊者が読書できる「図書蔵」、年配者と子どもがともに過ごせる「遊び蔵」

地域振興にかかわる卒業研究の取り組み



写真1 「ムクロジストラップ」と説明書

写真2 「ムクロジ洗剤」と説明書

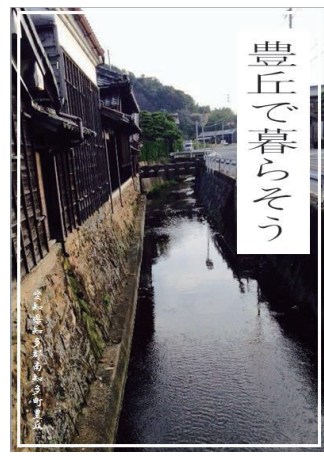


図1 「サイクリングマップ」

図3 乙型集落模型

図5 「豊丘暮らしポスター」



図2 「豊丘地区紹介マップ」の一部（表紙・裏表紙、つくる買う豊丘等、神社・寺巡礼）



図4 「乙型集落探検マップ」の一部（表紙・裏表紙，魅力スポットピックアップ，発見箇所）



写真3 「PR映像・春祭り」の一部（オープニング，熊野神社，願いごと風船）



写真4 「PR映像・長編」の一部（オープニング，豊丘簡易郵便局，乙方潮干狩場）



写真5 「PR映像・短編」の一部（オープニング，南知多町の位置，日の出タイムラプス）



図6 「豊丘暮らし冊子」の一部（表紙・裏表紙，家庭と地域の暮らし，住まいの紹介）

地域振興にかかわる卒業研究の取り組み



写真6 「春の会」との会合



写真7 春祭りブース作りと展示



写真8 大学祭展示



写真9 文化展展示と体験コーナー



写真10 最終報告会



写真11 中日新聞朝刊知多版記事



写真12 提供・配布物

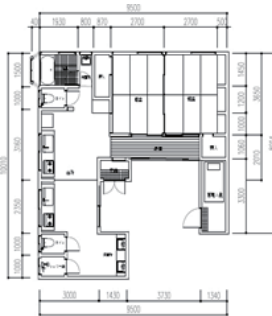


図7 ゲストハウス (左,中央) とコワーキングスペース (右) 提案

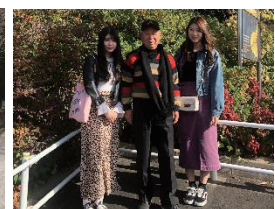


写真13 提案展示と意見収集

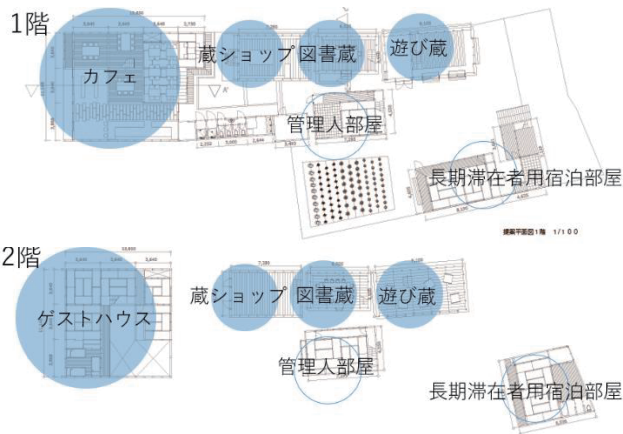


図8 元商家利用の提案平面図



図9 提案パス（上から順に外観，カフェ，蔵ショップ，図書蔵，遊び蔵と庭）



写真14 左「あまつり2016」（市長来訪）右「あま市市民活動祭2016」展示と意見収集



図10 「あま市郷土かるた」絵札と読み札の一部（絵札と裏面解説，絵札，読み札）

とし、敷地のオープンスペースは、遊びや野菜栽培などができる場とした（図9）。奥の離れは、足助のまちに関心を持つ人のお試し居住など、長期滞在者用宿泊空間とし、畑も設けた。完成した設計図面や模型は、活用方法検討の一助となるよう市に提供した。

4. 愛着・定住の事例

4.1 あま市郷土かるた（2016年度）

愛知県あま市は、2010年に甚目寺町・七宝町・美和町の3町が合併してできた市で、近郊農業が盛んな名古屋市のベッドタウンである。地域の歴史は古く、市内には寺社や史跡が散在するとともに、戦国武将の蜂須賀小六正勝、福島正則を輩出したまちでもある。しかし、合併して7年近くを経た今も（研究当時）、市外の人とはもとより、町民も、「あま市」への認識は高くないままである。そこで、この研究では、あま市の歴史や特色を楽しみながら知ってもらえるように、「あま市郷土かるた」を企画・作成することとした。

市は「人・歴史・自然が綾なすセーフティ共創都市あま」を掲げており、まちづくりパートナーシップ条例でも、自然・歴史・文化といった言葉が用いられている。これらをふまえ、歴史・文化・人・自然をキーワードとして題材を選定し（表2）、試作版をもとにイベント等で意見収集したうえで（写真14）、かるた（裏面に解説付き絵札と読み札）を印刷、完成させ（図10）、市内の小学校や児童館、市民活動センター、観光協会、市役所などに提供した。2017年2月16日の中日新聞朝刊尾張版には「あまの誇りかるたに一大学生上村さんが製作」と題して、寄贈式も行われたことなどが報じられた⁴⁾。

表2 あま市郷土かるたの題材一覧

歴史	歴史	文化	人
あ：あま市	な：南大門	お：オコワ祭	え：小笠原登
い：石作神社	ぬ：漆部神社	け：献酬祭	は：蜂須賀小六
う：甚目寺本尊	ね：湊築園	こ：小松菜	ふ：福島正則
か：萱津神社	ひ：飛行場開拓記念碑	す：水仙ロード	ま：まつ
き：菊泉院	ほ：方領大根	せ：節分会	自然
く：葛の葉稲荷社	み：弓掛の松	そ：総合体育館	ら：ラカンマキ
さ：三重塔	め：七宝焼起源碑	に：二十五菩薩来迎会	り：リバーサイドガーデン
し：甚目寺	も：元飛行場遺構	の：野点	
た：大徳院	よ：嫁獅子の里碑	へ：平成プロムナード	
ち：治水記念碑	る：七宝焼き	む：むしば地蔵	
つ：津島街道	れ：蓮華寺	や：香の物祭	
て：鉄地蔵	ろ：六地藏	ゆ：湯の花神事	
と：梵鐘			

4.2 一宮かるた&年表遊び—愛知県一宮市100周年記念（2021年度）

愛知県一宮市は、市政100周年を迎えた中核市で、古くから紡績や繊維産業の一大中心地として知られ、神武天皇の時代に鎮座したとされる由緒ある真清田神社があるなど、歴史あるまちである。住環境も整い子育て世代に人気であるが、若い世代では転出が多く、まちの特色についても知らない傾向があることもわかった。そこで、この研究では、子どもの頃からまちの魅力を知り愛着や誇りを持ってもらえるよう、そして100周年記念事業にも寄与できるように、「一宮かるた」を企画・作成することとした。

題材を、繊維、祭り・行事、食、城跡・遺跡、人物、建物の6つに分類し（表3）、分類

表3 一宮かるたの題材一覧

繊維	祭り・行事	食	城跡・遺跡	人物	建物
き：FDC	け：ばしょう踊	し：モーニング	か：黒田城跡	あ：いちみん	い：138タワーパーク
く：葛毛織工業	こ：一宮七夕まつり	つ：バトコンラーメン	さ：佐野遺跡	お：織子	う：若宮神明社
す：尾州かばん	た：素人チンドン祭り	ね：福来蜜	ほ：吉藤城跡	に：川合玉堂	え：服織神社
せ：繊維産業	は：桃花祭	む：桃花おこし	ま：一宮城跡	ぬ：佐藤一英	そ：旧林氏庭園
と：バツタン装置	も：どんと焼き		ら：馬見塚遺跡	み：三岸節子	ち：妙興寺
の：のこぎり屋根	ゆ：濃尾大花火		り：浮野合戦	め：市川房枝	て：一宮市博物館
ひ：尾州マーク	る：島文楽			や：山内一豊	な：真清田神社
へ：ガチャマン景気	ろ：黒岩祇園祭			れ：浅野長政	ふ：墨会館
					よ：一宮本町商店街
					わ：御裳神社

ごとに絵札の色分けを行った（図11）。また、一宮市の歴史や文化の流れを年代別、種類別に遊びながらとらえることができるように、絵札裏面記載の年代を見て同じ色の段に並べていくという年表遊びも作成した（図11）。完成版のかると年表は、市内の小学校や児童館、市役所などに提供した。2022年2月10日の中日新聞朝刊尾張版には「一宮愛育むかるた作ったよー相山大・川瀬さん 児童館や小学校に贈る」、2月26日のケーブルテレビICC「街ネタプラス」では「遊びを通して地元愛育む一宮かるた」として報じられた^{5), 6)}。

4.3 長久手市の魅力を伝える一郷土トランプ（2015年度）

愛知県長久手市は、都市と田園が併存する名古屋市のベッドタウンで、東洋経済「住みよさランキング2015」では、県内1位、全国2位にランクインし、小牧・長久手の戦いで知られ、愛・地球博が開催されるなど、多くの魅力を有するまちである。こういったまちの特色や、これらを知ることができる媒体について、市民へのアンケート調査を行ったところ、若い層や新しい居住者にはまちの特色があまり知られていないこと、子どもからお年寄りまでのさまざまな世代が遊べる媒体がよいなどの意見があったことから、さまざまな遊び方ができる「長久手郷土トランプ」を企画・作成することとした。

マークごとに、♥長久手市、♣文化財、♦公園・名所、♠施設と定め、題材を抽出し（表4）、試作版をもとにイベント等で意見収集したうえで（写真15）、トランプを印刷、完成させ（図12）、市役所を含む題材各所、長久手市商工会、まちづくり等諸団体、小学校、福祉施設などに提供した。

表4 長久手郷土トランプの題材一覧

ハート（長久手市）	クローバー（文化財）	ダイヤ（公園・名所）	スペード（施設）
1：長久手市（地形）	1：長久手古戦場	1：桜ヶ池公園	1：長久手市中央図書館
2：住みよさランキング2015 県内1位	2：御旗山	2：古戦場公園	2：長久手市まちづくりセンター
3：馬の塔園絵馬	3：首塚	3：色金山歴史公園	3：長久手市郷土資料館
4：小牧・長久手の戦い	4：色金山	4：血の池公園	4：長久手文化の家
5：カエデ	5：庄九郎塚	5：後山公園	5：長久手温泉ごらっせ
6：サツキ	6：勝入塚	6：卯塚緑地公園	6：長久手スポーツの杜
7：リニモ	7：長久手市城趾	7：原邸公園	7：平成こども塾（丸太の家）
8：棒の手	8：木下感動解由塚	8：桜ヶ根公園	8：長久手市役所
9：クーテジガーナ	9：堀久太郎秀政本陣地跡	9：せせらぎの径	9：ケアハウスゴジカラ村
10：ワーテルロー市	10：長久手の棒の手	10：トヨタ博物館	10：長久手交流プラザ
J：ながくてりーぬ	J：警固祭り	J：名都美術館	J：シンシアの丘
Q：古戦場もなか	Q：武蔵塚	Q：ながくてエコハウス	Q：あぐりん村
K：長寿の酒 長久手	K：前熊天王祭り	K：モリコロパーク	K：福祉の家

地域振興にかかわる卒業研究の取り組み



図11 「一宮かるた」年表遊びシート、絵札と裏面解説、絵札、読み札の一部



写真15 「こども商店街」(市長来訪)「市民活動交流会」「ながくて冬まつり」展示と意見収集



図12 「長久手郷土トラップ」の一部

4.4 春日井サボテンの魅力を知る、味わうー愛知県春日井市サボテンプロジェクト (2021年度)

愛知県春日井市は、高蔵寺ニュータウンを有する中核市で、地域振興の切り札として、全国シェア8割を誇るサボテンの普及に力を注いできた。サボテンには、観賞用、食用、家畜用と様々な品種があるが、市では、栄養豊富な食用のウチワサボテンを特産品「春日井サボテン」と命名し、サボテンプロジェクトを立ち上げ、ブランドPR、サボテン生産日本一PR、飲食店などでの各種サボテン事業などを行い、一定の成果を上げてきた。しかし一方で、サボテン農家では後継者が不足し、全国的な認知度や市民の関心も高くはないといった課題もある。そこで、この研究では、市のサボテンプロジェクトに協力しながら、「春日井サボテン」への認知度高上や、農家の後継者育成に少しでも寄与できることを願って、以下のような企画を行うこととした。

まず、サボテン広報活動拠点の内装&レイアウトについては、都市緑化植物園内にありながら、ほとんど活用されていない広報拠点を、サボテン寄せ植え体験教室と、体験した子どもの写真撮影・掲示、調理方法を記載したパネル展示などに使えるよう設計し、サボテンプロジェクトへ提案した(図13)。

布絵本『サボテンみつけた』は、絵本の各要素をはずしたりくっつけたりしながらサボテンの収穫や調理を疑似体験して、親子で楽しめるような立体的な絵本で、「春巻き」と「ピザ」の2種類とした(図14)。また、カードゲーム「ウチワサボテンたべられます」は、サボテンの栽培と出荷、サボテンを使ったお菓子や料理などを知ることができるように、「サボテンカード」「栽培カード」「りょうりカード」と「プレイボード」から構成し、遊び方の説明書も添付した(図15、16)。いずれも、試作版をもとにイベント等で意見収集したうえで完成させ(写真16)、市役所および取り上げた各所に提供した。2022年2月17日の中日新聞朝刊近郊版には「春日井サボテンのゲームと絵本寄贈ー梶山大の西川さん、川口さん 市に」として報じられた⁷⁾。

その他の活動としては、市募集のサボテンマークに6種類応募、ふれあい農業公園内にあるカフェのサボテン料理メニュー表作成(図17)、市役所職員グループ「さぼがーる」との対談、サボテンダンスミュージック動画への出演(市のYouTubeとHPに掲載)、緑と花のフェスティバルでのサボテン販売店の手伝いやCBCテレビ「まちイチ」の取材協力、サボテンキャラクターに扮した動画撮影とSNS発信などを行った(写真17)。

4.5 岐阜県関市の暮らし発信ー旧板取村を事例に(2016年度)

岐阜県武儀郡の5町村は、2005年に関市と合併し、10年を経たが(研究当時)、これら旧町村域から旧関市域への転入はとどまらず、高齢化が進み、過疎地域に指定されるにいたっている。しかしながら、これらの地域では、豊かな自然のなかで昔ながらの自給自足の暮らしがいまでも営まれているなど、むしろ今日見直すべき貴重な存在といえる。そこで、この研究では、旧町村域のうちの板取地域を取り上げ、今も残る昔ながらの暮らしの特徴と魅力を、市民に親しまれているフリーマガジン「ぶーめらん」の特集記事で広く伝えることを企画した。クロード・モネの「睡蓮」に似た「モネの池」が話題を呼び多くの来訪者があることや、山水を「ふね」と呼ばれる造作物に貯め生活水としても利用、自給自足のための鶏飼ひ、郷土料理「手味噌を使った味噌煮」の継承など、昔ながらの暮らし

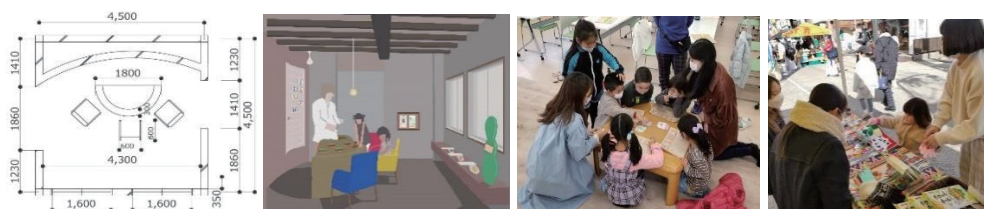


図13 サボテン広報活動拠点の提案 写真16 「あい農子どもクラブ」「勝川弘法市」での意見収集



図14 布絵本『サボテンみつけた』『春巻き』表紙と遊び方, 「ピザ」表紙(右下)

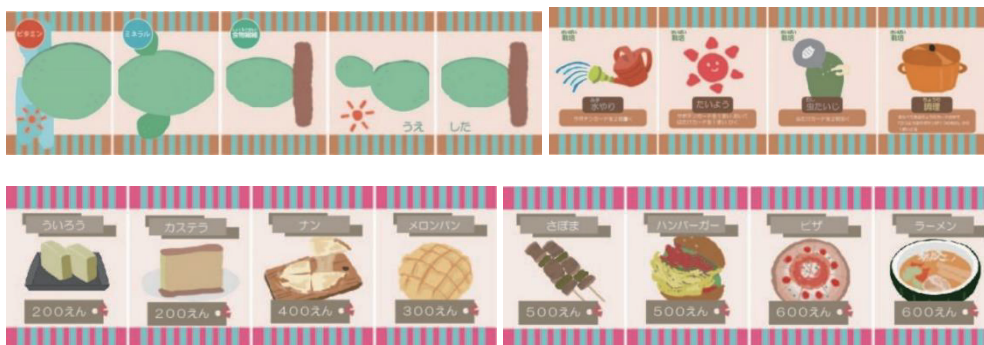


図15 カードゲーム「ウチワサボテンたべられます」のサボテン, 栽培, 料理カード

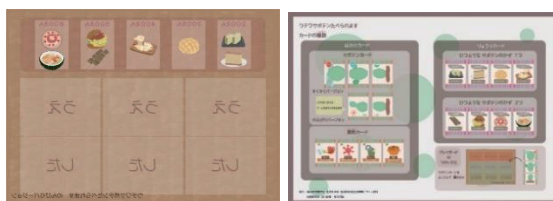


図16 同上のプレイボードとルール説明 図17 サボテン料理メニュー表, サボテンマーク応募



写真17 「さばがーる」との対談, 緑と花のフェスティバル手伝い, 動画撮影とSNS発信

が大切に営まれていることなどから、記事にふさわしいと判断したためである。

具体的には、「女子大生が行く！板取暮らし」と題して、特集記事作成の経緯とねらい（図18右）、板取生涯学習センターでとの聞き取り調査と「ふね・鶏・味噌煮」を取り上げた経緯（図18左）、「ふね」「鶏」などの自給自足生活、「味噌煮」のルーツと作り方などを4頁分で説明している。記事にQRコードを載せ意見・感想を求めたところ、「同じ関市内にこのような地域があり暮らしがあることをはじめて知った。田舎暮らしが注目されるなか、もっと関市にも目を向けようと思った」などが寄せられた。

4.6 イベント情報お届けします！一名古屋市守山区 SNS 発信（2020年度）

名古屋市守山区は、大学などの文教施設や各種福祉施設、河川や緑地、農園などの豊かな自然、数多くの歴史的遺産に恵まれたまちで、「住みよいまち、緑豊かなまち守山」を基本目標とし、「区の特徴・魅力を活かしたまちづくり」など5つの重点目標を定めている。これらに関する区民の意見をとらえてみると、「区政について知りたい情報」では、「各種イベント情報」「史跡・名所など区の魅力に関する情報」があわせて5割弱、「行政や地域が力を入れるとよいこと」では、「広報なごや守山区版や守山区ウェブサイトなどを活用した情報発信」が5割以上あることがわかった。こういった意見をふまえ、守山区のイベントや施設・スポットの魅力を盛り込んだ「守山イベント・スポット情報」のSNS発信を企画した。

投稿予定の施設等やイベントを訪問するなどして許可を得たうえで取材を行うとともに、「MID - FM761 (Groovy Saturday)」に出演し、守山区の魅力をラジオ発信した（写真18）。取り上げた主な施設・イベントは、「東谷山フルーツパーク・フルーツ狩り情報」「体感！しだみ古墳群ミュージアム SHIDAMU」「天空SpaHills 竜泉寺の湯」「モリヤマルシェ」（図19）などである。発信媒体は、主にインスタグラムで、同じ内容をFacebookやTwitter、Tik Tokでも発信した。フルーツ狩り情報には、「さっそくリング狩りを楽しんできました！」などの声が寄せられ、イベント実施者からの掲載依頼も増えるなど、反響があった。アクセス数等は、2021年1月末時点で、投稿数133、アクセス数63,361、いいね！数3,603、フォロワー数341人であった。

5. まとめ

地球環境問題が深刻化する今日、「スロー、ミニマル、ローカルな脱消費の暮らし」への転換がますます求められているが、その最も重要な要素は、「ローカル」であるとの考えから、筆者の研究室では、卒業研究として、地域振興にかかわるさまざまなテーマに取り組んできた。それらのうち、本稿は、観光・移住および愛着・定住に関する事例について紹介したものである。

観光・移住関連として、「豊丘地区振興基本計画に基づく具体策の提案—観光資源に着目して」では、小学校廃校を機に人口減少と高齢化が深刻化している愛知県知多郡南知多町豊丘地区の観光資源に着目して、地域のまちおこしグループの協力を得ながら、観光資源をアピールできるような各種媒体の企画・作成を行った。事前調査、各種媒体等の展示や報告会などをおして意見収集を行ったうえで、完成版を作成し、各所に提供した。「観

— 129 —

光、起業、移住で湯の山温泉活性化―三重県三重郡菰野町」では、若者層の観光、起業、移住につながるような建物利用の提案を行い、実現の可能性を探った。「足助に泊まる、蔵で遊ぶ―豊田市足助町」では、活用方法を検討中の元商家を利用して、若者向けゲストハウス、まちの人も集えるカフェ、子どもが遊べる蔵や庭の提案を行った。

愛着・定住関連として、「あま市郷土かるた」では、3町が合併してできた「あま市」への認識が高くないことから「あま市郷土かるた」を、「一宮かるた&年表遊び―愛知県一宮市100周年記念」では、歴史あるまちであるにもかかわらず、若い世代の転出が多く、まちの特色もあまり知られていないことから「一宮かるた」を、「長久手市の魅力を伝える―郷土トランプ」では、まちの人の「若い層や新しい居住者には、まちの特色があまり知られていない」「さまざまな世代が遊べる媒体がよい」との意見を受けて「長久手郷土トランプ」を各々企画・作成し、各所に提供した。「春日井サボテンの魅力を知る、味わう―愛知県春日井市サボテンプロジェクト」では、食用サボテンプロジェクトに協力しながら、広報活動拠点の内装&レイアウト提案、布絵本やカードゲームの企画・作成と提供、その他のさまざまな活動を行った。

また、「岐阜県関市の暮らし発信―旧板取村を事例に」では、板取地域の昔ながらの自給自足的な暮らしの特徴と魅力を、地域のフリーマガジンの特集記事として掲載し、広く伝え、「イベント情報お届けします！―名古屋守山区SNS発信」では、区民が区の魅力やイベント等の各種情報を求めていることをふまえ、これらをインスタグラムやツイッター、Facebook、Tik Tokで発信し、多くのアクセスを得た。

これらをとおして、卒業研究に取り組む学生たちの地域への認識を深めるとともに、成果物を対象地域に提示あるいは提供、発信することができた。

参考文献等

- 1) 松原小夜子『持続可能な暮らし×自然系ゲストハウス―脱消費、スロー、ミニマル、ローカル』風媒社, 2020.
- 2) 松原小夜子『地域振興にかかわる卒業研究の取り組み―環境共生および防災に関する事例』椋山女学園大学研究論集 自然科学篇 (54) 103-119, 2023.3.
- 3) 中日新聞朝刊知多版「学生目線で豊丘町おこし―椋山女学園大 手作りマップや洗剤提案」2014.12.19.
- 4) 中日新聞朝刊尾張版「あまの誇りかるたに―大学生上村さんが製作」2017.2.16.
- 5) 中日新聞朝刊尾張版「一宮愛育むかるた作ったよ―椋山大・川瀬さん 児童館や小学校に贈る」2022.2.10.
- 6) ケーブルテレビICC『街ネタプラス』『遊びを通して地元愛育む一宮かるた』2022.2.26.
- 7) 中日新聞朝刊近郊版「春日井サボテンのゲームと絵本寄贈―椋山大の西川さん、川口さん市に」2022.2.17.